

平成 29 年度 第 1 回湯河原町総合教育会議会議録

日 時 平成 29 年 11 月 6 日（月）午後 1 時 30 分～2 時 30 分

場 所 教育センター 2 階 201 会議室

出席者（委員）町長、教育長、早藤委員、小松委員、貴田委員、西山委員

（事務局）参事地域政策課長事務取扱、地域政策課副課長、地域政策課副課長防
災係長事務取扱、企画係長

（教育委員会事務局）参事、学校教育課長、社会教育課長、図書館長、美術館長

欠席者（委員）副町長

傍聴者 4 名

1 開 会

2 町長あいさつ

皆様こんにちは。

平成 27 年、2015 年から新しい法律のもと、総合教育会議、こういった会議体が立ち上がりまして、2 年半が過ぎようとしているところでございます。大綱を作っていただくためにご尽力いただき、その後もことが進んでいるところでございます。本日の案件につきましては、お手元の次第のとおりでありますけれども、私から 1 点御礼と、またご報告をさせていただければと思います。本会議に直接かかわるか、という部分ではありますが、これまでの経緯もありますので。

お手元に読売新聞、11 月 4 日付けですけれども、平松礼二さんの「見えるアトリエ」の記事がちょうどありましたもので。この平松さんの関係につきましては、9 月の月末でしたか、皆様方にもご参加いただきまして、無事に、国の費用を使いながら「見えるアトリエ」が動き出したということで、こういった記事にも取り上げていただいたと思いますので、1 点ご報告を、御礼を込めまして新聞記事をお手元の方に配布させていただきました。

もう 1 点、JCHO についての資料でございます。資料というか、単純なイメージ図だけになりますけれども、正式に JCHO さん、これは町に直接関わりのある話ではないんですけれども、土地の売却等々につきましては、もともと中学校グラウンドということでしたので。これまで経緯をご説明させていただき、ご理解をいただく中で今日に至っておりますが、10 月中に最終的に、JCHO の、新たな湯河原病院の実際の仕事をする企業が五洋建設と久米設計という 2 つの設計会社と工事会社に決まったということで、契約に至ったという

ことで、既にいろいろなもので情報を得ることは可能でありますけれども、そういった状況になりました。この件につきましても、現実的に、実際建物の建築が始まるのはいつか、といいますと、もう少し先になると思います。方式につきましては、これまでも伝わっておりますが、デザインビルド方式というかたちで、提案をして、最終的に決まったところと契約をして、そこから実施設計、実際にどういったものを建てて、どうやっていくんだという方式の、提案型の中で事業者が決まったということでございます。

これにつきましては、イメージ図、概ねこういったかたちに出来るようではありますが、ただ1枚の図面ですとわかりにくいかと思いますが、この図面ですところの、玄関は湯河原駅向きに出来るということのようです。上の方から1本道路が入ってきて、少し下るようなかたちで曲がる。今日、教育センターの正面玄関を入れてこられたと思いますけれども、あそこから9m幅の道路がJCHO側に出来て、1段下がるところから右に行き、少し傾斜で下がりますので、そしてJCHOの正面に入っていくという、概ねこういった配置図のようでございますので、皆様方にも情報提供としてお伝えをさせていただくところでございます。

順調にいけば、平成32年4月1日に病院の開設ということですので、ここで事業者が決定したということですので、おそらく順調にいけば開業というのは現実になるかと思えます。事業者は、市場の原理・原則で受け手がなかった場合については、まったく違う状況になっていたと思えますけれども。そういった意味では、直接町が関わっているわけではございませんけれども、事業者が決まって契約に至ったということでもありますので、ことが順調にいけば、あと2年半ぐらいしますと病院ができて、そして町の方の防災コミュニティセンターの工事も始まっておりますので、来年の9月には出来ますので、その際には教育委員会は防災コミュニティセンターに移動するというところで、そして移動したあとそこに養護学校ができて。旧湯河原中学校の敷地の中に福祉施設、また病院機能が基本的に集積されるということは、あと3年ぐらい経つとかなり明確に見えてくるという状況ですので、この場をお借りしまして、私の方から皆様方にご報告をさせていただいたところでございます。

少し本題と離れましたけれども、このあと案件につきましてはまたご審議をいただく中で情報共有も含めてお願いできればと思います。どうぞよろしくお願いたします。

それと、早藤委員がここでまた委員として任命されました。存在感があるので、はじめというのでしょうか、私からお伝えしなければならぬと思います。議会の方の全員賛成のご同意をいただく中で、先日、任命書の交付をさせてい

ただいたところでございます。引き続きどうぞよろしく願いいたします。

3 教育長あいさつ

皆さん、改めましてこんにちは。

本日は、平成29年度第1回の「町総合教育会議」のご開催、誠にありがとうございます。秋も深まってまいりまして、教育委員会では、週末ごとに、行事を開催するなど、文化そしてスポーツの秋まただ中となっております。

先ほど町長からご紹介がありました美術館におきましては、平松礼二名誉館長のアトリエ公開が大変ご好評を博しておりまして、昨日も先生の熱の入った説明にお客様が聞き入っている状況でありました。昨日は、午前午後でおよそ40名の方がご来館し、アトリエの方を見ていただいた、という状況でございます。

それでは、教育委員会といたしましても、「教育大綱」の理念の下、町部局とも連携を図りながら、事業を展開しております。また、本「総合教育会議」では、これまで様々な教育課題について、情報をご共有いただきながら、その方向性を確認しながら、取り組んでまいりました。今回は、教育委員会からは、新たに、3件の教育課題につきまして、ご報告するとともに、ご協議いただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

4 案 件

(1) (仮称) 防災コミュニティセンターについて …資料No. 1

○資料No. 1 を説明 (参事地域政策課長事務取扱)

○質疑

(早藤委員)

…いま、教育センターの3階に「外国人相談室」があって、その中でその一部を貸していただいて、国際交流の方で湯河原在住の外国人の方に日本語の支援をしているということで、ほぼ毎日のように稼働している、そういった状況なんですけども。そういうときに使う場所というのは、この防災センターの中では確保されているのでしょうか。

(参事地域政策課長事務取扱)

…この防災コミュニティセンターの中には、その確保はしてございません。したがって、また別の方向性を見出したいと考えております。

(早藤委員)

…当初の話のときには、この中にそういうところを設置するというような話だったので、私どももそういうつもりで動いていたんですけども。具

体的に、そういう部分を公的施設の提供をしていただいて、安全性も含めてやっていくということが、町の将来のためには必要かと思うのですが、防災センターにはないということだと、他の施設をとおっしゃいましたが、具体的にはどういったところがあるのでしょうか。

(参事地域政策課長事務取扱)

…検討ということで話をさせていただきますと、同じ敷地の中に別棟か何かでご用意できることがあれば、そのような方向性も検討しているような状況です。

(町長)

…どうしても歯切れの悪い話になってしまうのが、まだ事業化されていないので。他の団体のことも含めたり、いろいろな角度で配置をしていく中で、ある程度、空間的な土地ができる可能性が見えてきた、ということになります。9m幅の道路を入れたり、そこに空きスペースができたなら、いまおっしゃられたような、そういった場所を別のかたちで計画できないかということが、ひとつ、正式決定ではないんですけども、図面もできあがっておりませんが、そういった選択肢が見えてきているのではないかと、というところまではお話しても良いのかなと。それ以降のことは、まだ何も、予算も持っているわけではありませんので、なんとも申し上げられないんですけども。防災コミュニティセンターにそういったスペースを、ということも、委員ご指摘の経過もあったかと思うんですけども、いろいろ考えていくと、このスペースの今後の使い勝手としてどのようなかたちが良いのかというところにぶつかりまして。そうすると、いろんな他団体全部でこの中を自由に使わせろ、といった行為の大きな可能性もありますので、既存の団体さんが使っている以外の団体からもリクエストがまったくないわけではありません。この辺をどのように整理していくか。そんな中から、いま説明のあったように、もう少し時間をいただく中で、そういった懸念をなくしていきたい、といったことは、いまの段階でひとつお話できるのかなと、こんな状況であります。

さきほど説明した体育館で何かやる際の控室をという話も、確かこの会議でのご提案だったと思いますので、そういった機能というか、臨時的なものは可能だということで、先ほどの説明の中で触れているかと思いますが、そのような状況になりました。

(貴田委員)

…いまの早藤委員のご質問に関連してしまうのですが、いま教育センターに各諸団体の備品とかが置いてある状況でして、教育センター敷地内の倉

庫にも子供会の備品とかが置いてある状況なんですけども、そちらの備品とかも防災倉庫の方に移動する計画はどうなんでしょうか。

(参事地域政策課長事務取扱)

…そちらの方も、さきほどの回答と同じになってしまうんですが、防災機能を持たせる施設ですので、やはりそういった各団体の備品につきましては、また今後移動先を検討させていただければと思います。

(町長)

…いまの倉庫、あれも意外と新しい倉庫なので、極めて経済的な話になってしまうんですけども、あれを壊しちゃうのか、それともどこへ移転するのか。ただ、移転させた場合費用がかかるので、新たに作ったほうが良いのか、その辺の検討も色々な角度でしていると思うんですけども。場所がなく、その倉庫を作ったという経緯もありますので、その辺をどう整理するか。いま、決定的にご説明できるまでに至っておりませんが、やはりその辺のご懸念を、これから子供会の備品も含めて、他の備品もかなり入り込んでいますので、この辺をどうするのか決めていかなきゃいけないと思っております。いずれこの辺もまた、整理をしてお伝えできるようにしたいなというふうに思っております。

役場の関係の物も入っていますか？

(社会教育課長)

…社会教育課のものが入っています。ただ、倉庫には入っていません。教育センターにはありますが。

(教育長)

…適応指導教室の関係なんですけど、場所はまだ決まっていないのでしょうか。

(参事地域政策課長事務取扱)

…まだ決まっていません。

(早藤委員)

…施設の方ではなくて、タイムスケジュールの中の庁舎の移転ということで、私もさきほどの話のとおり長く教育委員会に籍を置かせていただいているというか携わっていると、何回目かの移転で。これが私の最後の移転かな、なんて思うんですけども。移転のたびに、かなりの時間と人手等がかかっているかなと思うんです。今回は同じ敷地の中だからと言いながらも、かなりの物がある部署ですし、その辺の費用負担とか人員の確保とか車両の確保とか、その辺は予算化されているのでしょうか。

(教育長)

…まだ予算化は当然しておりませんが、来年度の予算にはなります。

(町長)

…おそらくこれが最後の引っ越しだと思いますけれど。もう4、5回引っ越しをしているんじゃないかと思うんですよね。これが最後の、終の棲家じゃないですけど、たぶんそうなると思いますし。その分、とっては失礼ですけど、綺麗な空間に入れるという。結果的には、ですけどね。色々なところを回されて、このような感じになって、今度は役所の本庁舎の方が汚い、危ないと集中的に言われるかな、という感じはするんですけども。

(教育長)

…大きな荷物は対応していただきたいな、と思うんですけども。

(町長)

…それは来年度の予算で考えなければいけないと思います。防災コミュニティセンターが9月に竣工すれば、その後、教育センターを壊していかないと、今度養護学校とのスケジュールの絡みが出てきてしまいますので。

色々みなさん現実的なことを考えていただいて、ご指摘いただく中で、しっかりまた整理しながらいずれ回答ができる状況にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(2) 湯河原町就学援助費について …資料No.2

○資料No.2を説明(参事)

○質疑

(教育長)

…本件につきましては、国の基準等の見直し、それから他市町等の状況を受けまして、教育委員会の中で2回ほど協議いたしました。その結果でございます。この件につきましては、当然予算に伴うものでございますので、ここで決定というわけにはいかないと思います。ただ、教育委員会としての考え方をここでお示しさせていただいて、ご検討いただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(町長)

…いまの教育長の話ですけども、皆さんいろいろご議論いただく中で今日に至ったということでございますので、この内容につきましては、資料どおりご理解いただいたのかなという前提かと思いますが、何かこの際、他にもご意見があればお伺いをしたいと思います。

私の方からは、いま教育長からお話があったように、皆さんが以前から他の市町村との比較やら、いろんな社会の状況から見直すべきではないかという声も多かったということも、少し聞いておりました。ここでいよいよその辺の見直しをして、こういった整理ができたということでございますので、見直しの方向でことを進めていかなきゃいけないのかな、とは思っております。いわゆる来年度の予算を今後あげてく中でそれを認めて、また議会にも理解をいただいて、そういった運びにはなるかと思えます。

(西山委員)

…意見というか、1つよろしいですか。

町政を預かる関係で、予算ということは絶対に避けては通れないということは、重々承知しております。ただ、現場で子どもたちと接してきた経験の中から1つエピソード的なものをお話ししたいと思うんですけども。

かつていた学校で、給食費の集金が近づくとき特定のお子さんが休むことがあって。そして、当然立場上、給食費は学校としてはちょうだいしなくてははいけませんので、管理職がある程度期日を置いてから家庭訪問するわけですね。ただやはり、その家庭訪問でも居留守的なものを使われたりする、というような感じでした。要は、やはりある部分で子どもたちには、そういった家庭の事情というのはわかっているわけなんですけれども、子どもたちがそういう思いで学校に来れないとか、来ても耐える、そういう部分を回りの人と比較しちゃう。先生は私のうちのこと、給食費のこと、いろんなこと知っているんだよね、と言いながらも堪えながらも来ているお子さんもいる。やはり、そういった子どもは一人でもなくしてあげたい。それが、私たち大人が子どもたちにしてあげられること。もちろんそれだけじゃないですよ。これも1つの方法です。ですから、その意味でもぜひ、支給認定基準の1.1が1.3になるということで、ある部分では、よかったね、というようなご家庭、子どもももちろん出てくると思えます。その分、町の負担というか、私たち一般の納税者といいますか、そういった部分での負担は入ってくるかと、それはもちろんわかっていますけど、ぜひ、次年度このかたちで実施していただいて、そういう子どもたちを救い上げてほしいなというお願いです。

(町長)

…まさに現場での体験からのご意見、体験談ということですので、少しでもそういった、本当に困っている家庭、児童、生徒のためにこういった見直しというのも、皆さんにご提案をいただく中で予算化についてはしっかり進めていきたいというふうには考えております。もちろん、これ

で満足する方ばかりではないかもしれないですけども、現状よりは少しでも基準を見直して、少しでもそういった方々に安心な、というか、どうかたちが良いのかわかりませんが、少しでもそういった心の支えみたいになればというふうには思いますので、その辺をよく踏まえて、今後、この件についてもしっかりと予算化については取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

では、この件につきましては、この内容で来年度に向かって取り組みをしていくというかたちで、今日のところはしめさせていただきます。

(3) 小学校における外国語教育の充実に向けた取組みについて …資料No.3

○資料No.3を説明（学校教育課長）

○質疑

（早藤委員）

…いま、課長の方から説明がありましたように、外国語教育の時間数が増える、というのは、つまり必要だからということで。国の方の手当てが来る前に、やはり必要なものは先駆けてやるべきであるかと。一応いまの説明の中では、32年度の前段階として、30年、31年の2年間を各学年15時間ずつプラスしていくというようなものになってます。ただ、私としては、来年度は15時間増やしたら、次の年度は20時間とか25時間増やすようにしていかないと、どんどん差が開いていっちゃうんじゃないかなというふうに思うんです。ですから、とりあえず来年度分はこの15時間をプラスしてもらって、その次はさらに15時間プラスしていくようなかたちをつくっていただけると、その次の32年度にスムーズに入れるかなと思います。ただ、いまやれることは来年度のことだと思いますので、まずは来年度に各学年15時間ずつプラスしていけるようなかたちをぜひ検討していただけたら、というふうに思います。

（町長）

…ことの進め方、時間配分も急激にではなくて、少しでも右肩上がりに上げていく、そういった考え方だと思いますけれども、どうでしょうか。

（教育長）

…当初はですね、32年度を前倒して湯河原はできないかということで、校長会の方で投げかけさせていただきました。校長会としては、やはり急にはできないだろうということで、近隣を見ましても国の示した移行期間に沿ったかたちでやるというのが現状のようです。いま早藤委員がおっしゃいましたように、31年度に経過的に増やしていくという方法は、それは1

つの手法としてとれるのかなとも思いますので、今後やはり現場、校長会でもそういうお話をさせていただいて、教育委員会と学校で調整ができればというふうに考えております。

(町長)

…では、いまの含みをもって、30年度についてはこの案で。まあ、まだ他の意見もあるかもしれませんが。いまの早藤委員の提案としては、そういった少しずつ近づけていくべきではないかと。急激にやるとついていけなくなって、その教科が嫌いになるという、そういったことも出てくるかもしれませんので。その辺を現場と打合せさせていただいて。ただその分どこかにし寄せがいくという、裏側の部分もあるんで、ここの難しさというのは、皆さんやはり共有されているという中ではありますけども。

では、この件につきましては、31年度どのように進めていくか。これについては、よく現場と早目の調整をさせていただいて、叶うようであれば31年度からさらに時間数を増やすといったことも1つ含めてことを進めていただければと。これも予算が絡むことですので、その辺もまたしっかり考えていかなければと思います。

(4) 吉浜小学校における放課後子ども教室の実施について …資料No.4

○資料No.4を説明(社会教育課長)

○質疑

(教育長)

…この件につきましては、なかなか吉浜小学校でできていなかった部分がありますので。ただ、やはり性格上、地域の方の協力が必須になっておりますので、今後機会を設けて、そういったご協力の依頼をかけていきたいなと思っております。

(町長)

…ちなみに、「設置検討会設立」とあるけど、どういったメンバーなのか？

(社会教育課長)

…いままだ計画段階ではありますけども、この12月に吉浜小学校のPTAの役員会がございまして、そちらで説明をさせていただきます。そして、PTAの方に説明したあと、地域の方でご協力いただける方がいらっしゃるかどうかということでお声をかけさせていただいて、概ねどんなことをやっていこうかと。

(町長)

…そういった方々が検討会のメンバーなの。

(社会教育課長)

…検討会のメンバーについては、その下に運営委員会というのがございまして、これは小学校の教務担当ですとか、PTAの代表者、それと安全指導委員というこちらの放課後教室に参加していただく方、それとコーディネーター、社会教育課ということが運営委員会の規定になっておりますので、これにそのまま移行できるようなかたちで検討していきたいというふうに考えております。

(町長)

…ちなみに、よその2つの学校である程度実績が生まれてきてやっているけれど、効果というか、その辺の背景はどうですか？

(社会教育課長)

…直接どういった効果があるのかと言われるとなかなか難しいところもございしますが、家に帰ってテレビやゲームなどをやってはいけないというわけではございませんが、そういったことに時間を費やすのではなくて、放課後に子どもがみんなで集まっているいろんな遊びや学習をするというようなことで、安全な安心な居場所を提供できていると考えております。

(教育長)

…そよかぜ教室にしろ、まなび教室にしろ特徴がありまして、内容がだいぶ違っているんですね。湯河原小学校の放課後まなび教室は、最近パソコンを使ってプログラミングしたりとか、子どもたちが積極的に参加する。また、学習もやっているということで。また、東台福浦小学校のそよかぜ教室の方は歴史が少し長いのですが、遊びに特化したかたちでやっております。居場所としての捉え方になっております。今後吉浜小学校がどういったかたちでつくっていくのかということは、地元の意見を聞いて、また参画していただいて、構築していくようなかたちになろうかと思っております。

(町長)

…吉浜小学校においてもしくみを現実的にしていくということで、またご理解と地元のご協力をいただいて進めていただければと思います。

その他

(早藤委員)

…今度の土曜日、11月11日、先ほど教育長からもお話がありましたように町で色々なイベントがありますが、国際交流協会として町、あるいは教

育委員会から後援をいただいております中の1つで、「国際フォーラム in ゆがわら」というのを土曜日の14時から16時まで図書館で行います。その内容は「湯河原から世界へ グローカルな町づくりを目指して」という表題にしております。グローバルという言葉は「グローバル」と「ローカル」を合わせた造語なんですけれども。これはもう一般的に外務省等でも通用している言葉で、言葉のとおり、地域特性を生かして地球規模の活動へ向けていこうという。まちづくりにも関係してきますが。

今回のパネリストの方々がすべて湯河原に関連している外国人、湯河原出身の国際的な企業の方、山田さんも含めまして5人の方々によるフォーラムを行いたいと思っておりますので、町の地域政策も含めた、まちづくりに関連のある方々に出席していただいて、国際的な視野を持った中で、この小さな町から世界に発信していく、あるいは世界の目を湯河原に向ける。そういうような、湯河原だけに住んでいる人からは気が付かないようなものを発信していただけるようなフォーラムにしたいと考えておりますので、ぜひ多くの方のご参加をいただきたいと思ひまして、貴重な時間で申し訳ございませんがご紹介させていただきます。

ちなみに、町長にはこのときご挨拶をいただくようになっていまして、よろしく願いいたします。

(町長)

…これは、結構すごいですね。パネラーも。

(早藤委員)

…5か国いらしてくださって、わざわざ中国からは前々日から湯河原へ来ています。

(町長)

…庁内メールで、興味のある職員を募ってみてください。こういう話を聞いているだけでも、良い研修になると思います。

(早藤委員)

…プロじゃない人たちの話ですから、本音で話してくれると思います。

(町長)

…全部日本語ですか。

(早藤委員)

…全部日本語です。この参加者のジュリサ二見さんという方は、ペルーから来た方で、テレビでも取り上げられている方です。山田貴子さんはご存じのように、子どもフォーラムにも来ていただいております。

(教育長)

…あと、「居場所」の方ですね。

(町長)

…ポートステイブンス派遣の第1期生でもありますから。そういうつながりもあるから、ポートに参加した人たちが人材として育てているという検証にもなりますね。

(小松委員)

…その他でもう1つよろしいですか。学校司書さんのことなんですけども。いま1名の方が4つの学校を回られていて、中学校に火曜日と木曜日に来ていただいているんですが。私は4年前から図書ボランティアをさせていただいております。始めた頃は図書室に来る生徒は本当に少なかったんですが、いまは多いときは60名くらい、お昼休みのたった15分の時間なんですけども、図書室に来るんです。司書さんの力は大きいと思います。2年前から司書さんが入られております。

それで、先日図書ボランティアに入ったときに、「学校の保健の課題で生活習慣病に関する調べ学習があって、そういう関連の本を探しているんだけど」と生徒に相談されたんです。私たちはボランティアなので、蔵書全般を把握しきれているわけではないので、なかなか対応が難しいことがあります。小学校の状況はどうだかわからないんですけども、理想としては全校に司書さんを置いていただくのが一番良いと思うんですけど。いまお1人ではカバーしきれないので、順次お1人ずつ増やすというようなかたちで、来年もう1人司書さんが入っていただけるとありがたいと思います。

図書ボランティアは火・木曜日で、昨年までは教員数が比較的足りていたのか、水曜日は学校の先生が昼休みになると図書室にいてくださったんですけども、今年から生徒数が減ったのか教員数が減ってしまったので、水曜日に教員が人材不足で入れなくなったということで、いま図書ボランティアが月・水・金で入っているのですが、お子さんが中学校くらいだと働いている方がほとんどで、なかなか月・水・金を全部を図書ボランティアでカバーするのは大変な状況なので、それも含めて司書さんの増員をお願いします。

(町長)

…蔵書のデータベース化は終わったのですか。

(小松委員)

…はい。とても素晴らしいものをつくっていただきました。

(教育長)

…子どもが管理するようになりましたから。

(小松委員)

…あのシステムはとても助かっています。

(町長)

…司書増員は、これもまた予算の関係になりますのでね。

できれば、こういう会議でどんどん意見を出していただきたいですね。政治的な活動から出てくると、受け止め方も少し斜めに見てしまうときもあるので、できる限り皆さんの、関係者の意見を出していただくと良いのかなと。すぐに叶えられるかは別としましても、自然に話が聞けるという部分もありますので、ぜひよろしく願いいたします。それが、ある意味この会議の大切なところかなとも思いますので。

(小松委員)

…もう1つよろしいですか。

義務教育からは少し離れてしまうんですけども、いまファミリーサポートにかかる料金が月曜日から金曜日だと通常の7時から19時まで30分350円で、早朝や夜間になると30分450円で、休日はどの時間も30分450円で、比較的そんなにはお安くはないので、本当に生活に困っている方だと頼みたくても頼めないケースが出ているのではないかと思います。なので、そういったところに援助があるといいなと思います。

(町長)

…すべて研究をし尽くしていないのでなんとも言えないのですが、実はいまおっしゃられたファミリーサポートと子育てサロン、いわゆるゆたぼん館に集まる子どもさんと、さっき山田貴子さんの名前が出ましたけれども、多世代が交流する場所を、これは未病の観点からことが進んだんですけども、結果的にそこにも子どもさんが集まりだして。そして子どもさんたちが自分たちである一軒のお家をリノベーションして。自分たちでペンキを塗って、そこに多世代というかたちで高齢者の方も少しずつ手助けしてくれて。これを今後どういうふうにしていくかという課題が1つ出てきているんですけども。

誰が言ったかということは置いておいて、間違いなく関わっている方の話なので私もびっくりしたんですけども、その2つの施設を比べると、多世代の方の施設に集まる子どもさんは極めて家庭環境というか生活水準が厳しい人が集まっている。逆に、子育て支援の方が、お母さんが一緒に子どもさんと来て、昼間一緒にいれる時間があるというか、だからとい

って決して豊かというわけではないと思いますが、あくまで比較した感じなんですけれども。ですから、ファミリーサポートのサポートする人の経済的な状況と、働きたいからある程度お金を出しても良いから働くんだ、というチョイスと。これは答えにならないんですけれども、また検討していかねばならないと思うんですが、そういった2つの空間ができることによって、何か、子ども同士で間違いなく、さきほどの西山委員の発言のように二極化というんでしょうか、そう印象を、両方見ている人たちは感じているというんですね。ですから、とりとめない話になってしまうんですが、いまの社会の縮図みたいなものが町の中でも、2つの空間が動き出して、そこに全く違う家庭環境の方々が集まる、というようなそんなことも出てきています。

この金額についてはまたいろいろ検討していかなくちゃいけないと思いますけども、ファミリーサポートについては働く方々が、そしてまた、誰でも良いマッチングというのもいかないんで、やはり人がしっかりしていなくちゃいけないというところで、なかなか契約の件数も思うように増えてないというところもあると思いますけども。この辺については、また今後どういうふうなかたちでやっていくのかは検討したいと思います。良いご指摘をありがとうございます。

5 閉 会